

【概要】

平成 21 年度上半期 フラット 35 利用者調査

I. 調査の概要

フラット35を利用された方の社会的属性、住宅の概要、資金調達内訳などに関して、金融機関から買取又は付保の申請があった債権で、平成 21年4月1日から平成 21 年9月 30 日までに買取又は付保の承認を行ったもののうち 20,703 件について集計。

II. 調査結果の主なポイント

1 30 歳代の構成比が低下

30 歳代の構成比が低下した。注文住宅では 20 年度上半期の 51.7%から 21 年度上半期は 43.0%と 50%を下回っている。中古マンションでは 20 年度上半期の 40.8%から 21 年度上半期は 36.0%へと低下し、30 歳代の構成比が 40%を下回っている。
<p1、p3>

2 1 人世帯が増加（マンション）

1 人世帯の構成比は、マンション全体で 20 年度上半期の 22.9%から 21 年度上半期は 29.5%へと上昇している。中でも、男性のうち 30 歳未満では 20 年度上半期の 19.7%から 21 年度上半期は 37.3%となり、構成比が最も高い。

取得した住宅の面積分布では、60 m²未満の小規模なマンションで1人世帯の構成比が 68.2%と極めて高くなっている。<p1、p4、p5、p9>

3 世帯年収が低下

全体では世帯年収 400 万円未満の構成比が 20 年度上半期の 15.9%から 21 年度上半期は 21.9%へと上昇している。中古マンションでは、年収 400 万円未満の構成比が 20 年度上半期の 30.9%から 21 年度上半期は 39.3%へと上昇している。中古戸建では、年収 400 万円未満の構成比が 41.1%と 40%を上回っている。<p2、p7>